特別企画

社員座談会 MEET OUR TEAM

会社を支える“守り”の最前線で
挑戦を後押しする“攻め”の基盤を築く



吉川　聡一郎
管理本部 総務部 主任
東京勤務／設備管理や株式報酬・持株会、本社リニューアルプロジェクトなどを担当。2024年1月中途入社。

伊藤　優紀乃
管理本部 人事部 人事労務グループ
東京勤務／給与・社会保険関連業務を担当。2023年9月中途入社。

根本　寛代
管理本部 総務部
東京勤務／営業管理部で受注・売上・請求管理を担当後、2026年4月より総務部へ異動。2008年新卒入社。

高倉　厳太郎
管理本部 法務知財部 主任
東京勤務／契約書審査や法律相談、知財業務を担当。2025年10月中途入社。

専門性と部署を越えた連携で、会社を支える管理本部

吉川：管理部門というと、かつてはバックオフィス（後方支援）の印象が強くありましたが、会社や働き方が変化する中で、求められる役割も広がってきていると思っています。今日は、それぞれの業務を通じて、管理本部がどのように会社や従業員を支えているのかを話していければと思います。まずは、それぞれの役割から紹介していきましょう。

伊藤：人事部人事労務グループで、給与・社会保険関連業務を担当しています。従業員からの給与や社会保険に関する問い合わせ対応、その他労務関連の手続きを担っています。人事部では「従業員はお客様」という考えのもと、日々の業務以外でなるべく手を煩わせることのないよう、給与業務や社会保険手続きを正確に進めることはもちろん、問い合わせには参考となる情報も添え、丁寧に対応することを大切にしています。

高倉：法務知財部で、契約書のチェックや法律相談に加え、知財業務も担当しています。新たに特許を取得する際は、事業部へのヒアリングを通じて技術や事業内容を整理し、ビジネスの視点も踏まえて、弁理士などの専門家と現場の橋渡しを担当しています。

根本：私は今年4月に総務部へ異動しました。それまでは営業管理部で、営業担当やSE、インフラ部門、経理など多くの部署と連携しながら受注から売上計上、請求まで幅広い業務を担当していました。営業管理部のメンバーにはそれぞれ担当の事業部があり、主に通信システム事業部の営業担当をサポートしていました。業務では、営業担当者が仕事を進めやすいように、なるべく先回りして準備や確認を行うことを心掛けていました。

吉川：総務部で、備品管理などの庶務から、持株会制度などの株式関連業務、オフィス改修プロジェクトまで幅広く担当しています。現在は本社リニューアルの事務局として各事業部の要望を取りまとめ、プロジェクトを進めています。伊藤さんが言うように、私も「社内の人は全員お客様」という意識を持つことを心掛けています。従業員が安心して働ける環境を整えるため、幅広く情報を収集し、発信につなげることが総務の大切な役割であると考えています。

伊藤：確かに、社内には「何か困ったらまず総務へ」という共通認識がありますね。実際、人事部と総務部は連携する業務も多く、私も吉川さんはじめ総務の皆さんによく相談しています。



従業員の声を制度改善につなぎ、
安心して働ける環境をつくりたい
伊藤（人事部 人事労務グループ）

吉川：そうですね。総務部は担当外の問い合わせも多いのですが、まずは話を聞いてから、管理本部内の適切な部署へ橋渡しすることを心掛けています。

根本：管理本部内は日常的に部署を超えて連携していますよね。それぞれの専門性を生かしながら連携することで、従業員をよりスムーズに支えられているのだと思います。

従業員と会社の成長を支える、“守り”の最前線

高倉：皆さんの話を聞いていると、業務は違っても、「従業員や会社が安心して活動できる環境を支える」という点では共通していますよね。管理部門は企業経営において「守り」の役割を担っていますが、その「守り」は単にリスクの回避やトラブルを防ぐことではありません。従業員が安心して働き、会社が安定して成長していくための土台を支えることも、私たちの重要な使命だと考えています。

伊藤：そのとおりですね。人事部の立場でも、日常業務の中で感じた従業員の困りごとを人事制度の改善につなげるため、同じ人事部内の人財戦略グループにも共有するようにしています。例えば産休・育休取得者の多くが、「自分の業務を引き継ぐ同僚に負担をかけてしまう」と不安を抱えている現実がありました。こうした課題に対して、2025年10月に引き継ぎ者へ手当を支給する「育児職場応援手当」が新設されたことで、「以前より育休を取得しやすくなった」という声を多く受けるようになりました。このように、従業員の声を制度改善へつなげ、安心して働ける環境を整えることが、当社従業員の高い定着率を支え、それが会社の持続的な成長にもつながると考えています。

高倉：法務知財部では、きめ細かなヒアリングを通じてリスクを洗い出し、リスクを管理するという「守り」の役割があります。例えば、契約時の小さな見落としが将来大きなトラブルの原因になることもあり得るため、無用なリスクを負わないよう、契約時には細心の注意を払っています。

また法務知財部は「内部通報」の窓口でもあります。従業員が安心して働ける環境を守るために、コンプライアンスの門番としての役割が果たせるよう努めています。

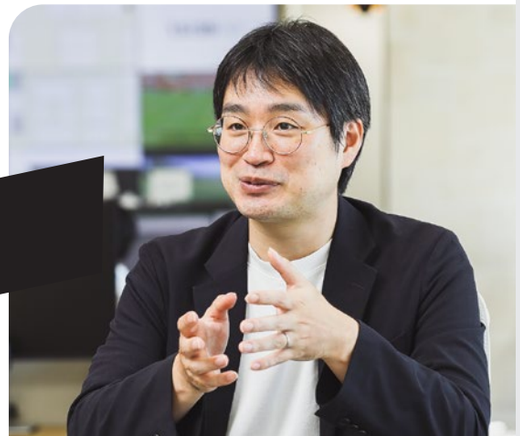
法令違反は会社の信頼失墜につながり、損害賠償に発展してしまえば、経営にも大きなダメージを与えかねません。だからこそ、相手や立場に関わらず、伝えるべきことを率直に伝えることを徹底しています。

根本：営業管理部の業務では、契約内容を正確に受注データへ反映し、売上と請求を確実に行うことで、営業担当とお客様の信頼関係を決して損なわないように配慮しており、それが「守り」への貢献につながっていると思います。一見地味な仕事ではありますが、営業担当が安心して提案活動に専念し、お客様との信頼を積み重ねるための、まさに土台を支える仕事であると、誇りを感じながら取り組んでいました。こうした仕事の積み重ねが、事業の成長に資すると信じています。

吉川：私も、管理本部の仕事は、直接お客様と会う機会はなくても、お客様との信頼関係の構築に貢献し、事業の成長を支えることにつながる重要な仕事だと感じます。

総務部では、設備管理に加え、産業廃棄物管理や各種保険、BCP（事業継続計画）の見直しなど、従業員の安全や事業継続を支える業務を行っています。

また、当社は社会インフラを支える事業を展開していることもあり、災害時にどの事業を優先するかを含め、緊急時の対応については、全社で共通認識を持つことが重要です。平時からのそうした備えがあるからこそ、非常時でも事業への影響を最小限にとどめ、お客様の事業継続もお支えすることができると考えています。



リスクを見極め、会社の挑戦を
後押しする法務でありたい
高倉（法務知財部）



現場に主体的に寄り添い、
一歩先のサポートで会社を支えたい
根本（総務部）

相手の一歩先を考え、主体的に寄り添う姿勢を大切に

吉川：もちろん、管理本部の仕事は、従業員から問い合わせを受け、それに対応するだけではありません。時には先回りして現場の困りごとや不安を察知し、主体的に必要な情報や仕組みを整備することも重要な役割だと思います。

そしてさらに重要なのが、課題の本質を分析し、解決策を導きだすことです。私が現在担当している本社改装プロジェクトでは、130件以上の要望が寄せられましたが、すべてをそのまま反映するのではなく、まずはデータに基づいた現状分析を徹底しました。出社率や会議室の利用状況、将来の採用計画などの「議論の前提条件（データ）」をプロジェクトメンバーに共有することで、建設的な優先順位づけを進めています。こうした分析をもとに適切な解決策を導き出すことが、結果的に業務の合理化・効率化をもたらすのだと痛感しています。

根本：先回りして困りごとを解決する姿勢は、私も重要だと考えています。担当営業から依頼がなくても営業管理部内で工夫を凝らして、業務効率化に役立つサポートを常に心掛けていました。例えばお客様からのご入金に関する社内への報告について、担当者が本業である営業活動に専念できるよう、営業管理部で把握できる情報をもとにあらかじめ報告書を作成していました。

高倉：先回りして、従業員の皆さんの時間や手間の削減をする姿勢は、法務知財部でも同じですね。契約書のチェックでは、事前に事業部門と調整し、案件の目的や懸念点を整理することで、検討すべきポイントを絞っています。こうしたやり取りを重ねることで、営業担当者のリーガルマインドの醸成にもつながると考えています。

伊藤：私は常に、法改正に関する情報を先回りして発信することを心掛けています。入社当初、出産や育児に関する制度の説明資料が整備されておらずに苦労した経験があったので、それを自発的に作成しました。現在は出産や育児に関する制度の申請があった際には、その資料を全員に配布し、個別に説明する時間を設けています。

根本：当社は2026年4月から、新しい受注計上システムに移行したのですが、その際に、私は営業の現場とIT推進部門との橋渡し役を担いました。私が担当していた通信システム事業部はイレギュラーな処理や案件数が最も多く、他の事業部よりも早い段階から新システムのテスト運用が始まりました。そのため、営業担当者の困りごとや改善要望を積極的に聞き取り、その結果をIT推進部門など関係部署に対して迅速に共有し、少しでも早く改善できるように継続的に働きかけていましたね。

高倉：私は日頃からこまめに電話をかけるなど営業の方々とのコミュニケーションを積極的に取り、信頼関係を築くよう心掛けています。小さな懸念や問題を事業部だけで抱えてしまうことが最も危険なので、リスクが顕在化する前に、どんな小さなことでも気軽に相談してもらえるような雰囲気づくりに努めています。

これまで皆さんの話を聞いていると、求められたことに対応する「守り」だけでなく、一歩先を考えて自ら働きかけることも、これからの管理部門に求められる「攻め」の姿勢なのではないでしょうか。

「守り」を固めることで、「攻め」の挑戦と成長を後押しする

高倉：法務知財部では「攻め」の1つとして、現場が自ら適切に判断できる環境づくりにも取り組んでいます。かねてより社内の法的な教育には課題を感じており、2026年5月には、九州事業所で初めて法務に関する学習会を開催しました。反響は上々で、「全社的にも実施してほしい」という声を多くいただき、あらためて法務に関する学習ニーズの大きさを実感しました。

法務の役割は、法令違反を防ぐことだけではありません。事業現場の方々がリスクを正し



現場と経営をつなぎ、
挑戦しやすい会社をつくりたい
吉川（総務部）

く理解し、必要な場面で適切な判断や相談ができる環境を整えることも重要です。現場の法務知識が高まることで、より適切かつスピーディーな判断ができるようになり、事業活動を後押しすることにもつながると考えています。

伊藤：その学習会には、人事部もぜひ参加したいですね。実は私たちも法改正や制度変更への対応が求められることがよくあります。例えば、現在マイナ保険証の本格運用が始まり、切り替えが進んでいますが、法改正によって手続きが変更になることを自主的にリサーチし、早めに従業員の方に分かりやすく伝えるようにしています。制度変更への不安を減らし、従業員が安心して業務に向き合える状態を整えることも、人事として会社の挑戦を支える基盤づくりだと考えています。

根本：通信システム事業部は請求書の発行件数が最も多く、ミスが起こらないよう細心の注意が必要です。そのため、システム移行期間中であっても正確な請求業務を維持できるよう、現場の声をIT推進部門へ届けることで改善につなげてきました。システムは導入すること自体が目的ではなく、現場の営業担当者が安心して使いこなせることが大切です。新しいシステムが定着すれば、営業活動のスピードや精度が高まり、より多くのお客様への提案や事業拡大にも貢献できると考えています。

吉川：私は経営層や社外の方とやり取りする機会があるので、その際に現場の意見を確実に伝えることはもちろん、現場の従業員が挑戦しやすくなるために、フラットに意見を出しやすい環境づくりを意識しています。今回のオフィス改修では管理本部を仕切る壁を取り払って他事業部と一体感を出し、総務がハブとなって全社の成長を後押しできればと思っています。

現場と共に成長し、より働きやすい会社づくりを目指す

根本：こうして皆さんの話を聞いていても、管理本部には各部門をつなぎ、働きやすい環境を整えていく役割があるのだとあらためて感じます。私は営業管理部時代に、営業担当者はもちろん、SEの管理にも携わっていたことから、多くの現場の方々と関わる機会がありました。そこで築いた関係性や、それぞれの部門の業務への理解は、自分にとって大きな財産です。今後はそうした知見やネットワークを生かしながら、管理本部と各部門をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。

吉川：私は、自身の業務をさらに効率化し、創出した時間でもっと従業員の要望に耳を傾け付加価値のある仕事をしていきたいです。一方で、管理本部の仕事は日頃どのような取り組みをしているのか、なかなか見えにくい部分があると思います。例えば環境整備に関する取り組みは、従業員が安心して働ける環境づくりのために重要な仕事でありながら、その意図や成果まで十分に発信できていないと感じます。今後は、何を目的にどのような取り組みを進めているのかを、意図や成果も含めて分かりやすく伝えていきたいと思います。

高倉：今後は、事業部門と法務の垣根を越えて、各事業部門に法務担当者を置くような体制や、知識や制度に関する情報発信を強化することで、会社全体の法的リテラシー向上ならびに、現場である程度判断できるような体制づくりに取り組んでいきたいです。そうした体制が整えば、よりスピード感を持って事業を推進できる環境へと変化し、生産性の向上にも寄与すると思います。

伊藤：私は人事制度だけでなく、DX化や情報・知識の一元化を進め、相談に来られた方が情報を拾いやすくすることで、少しでも皆さんが働きやすい環境を提供したいと考えています。

吉川：各部門で役割は異なりますが、目指しているのは「従業員が安心して挑戦できる環境をつくること」ですよね。私たちは、従業員一人ひとりに寄り添い支えていくことで、現場の声を制度・環境・仕組みに反映し、誰もが安心して力を発揮できる会社づくりに貢献していきたいと考えています。これからも部署の垣根を越えた連携を深めながら、「守り」と「攻め」の両面で、当社の持続的な成長と企業価値の向上を支える基盤づくりに貢献していきましょう。

